

歴史博物館から発信する大阪の町家の匠の技と住文化の魅力

—子ども・若者・外国人に町家と住文化を理解してもらうための動画制作プロジェクト—

プロジェクトの主旨

大阪市を中心部は、戦前までは町家が立ち並んでいたが、戦災とその後の都市化による町家の消失とともに、町家で見られた庶民の暮らしの文化も姿を消してしまった。一方、近年は各地で町家カフェや町家レストランなどが、伝統的な建物の雰囲気味わえるおしゃれなスポットとして若者や外国人観光客に人気であるが、町家の建築的な特色や住文化の理解には至っていないように思われる。「大阪くらしの今昔館」(2001年開館)は、江戸時代末の大阪の町家と町並みを実物大で再現した歴史博物館である。展示室の町家は当時の伝統工法(匠の技)を用いたほんものの建築である。

本プロジェクトは上述の課題に答えるために、「大阪くらしの今昔館」の町並み再現展示を舞台にして、子ども、若者、留学生、外国人観光客に、町家の建築的特色と匠の技、町家の住文化を学んでもらえる映像教材を4編を制作し、YouTubeで配信した。大阪の住文化の継承につながることを期待している。

動画の主な特色

- ①『大阪のすまいとくらしはおもしろい!』をキャッチフレーズに、昔の大阪の町を訪れたドイツ人留学生の質問に、町家の住民が答えるストーリー
- ②大工の「匠の技」を映像で示し、「箱階段」「通り土間」「天窗」「座敷飾り」「大きな梁」など、現在の住まいには少なくなった建築要素を解説
- ③建具替えなど、現在では珍しくなった庶民の暮らしの工夫を再現
- ④商人の住まいであった町家、庶民の住まい長屋の建築と暮らしを紹介
- ⑤住居史、美術史、住生活学の研究者による学術的考証がなされ、また映像内の随所に歴史資料を用いる
- ⑥日本語字幕版と英語字幕版を作成し、外国人のほか、日本語字幕版によって視覚障がいを持つ方にも伝える配慮

その1「なにわの町並み編」

町の仕組みと町家の外観に焦点を当てた。かつて大阪で各町の入り口に設けられていた「木戸門」の仕組み、町家の外観、摺り上げ戸のしくみ、内外の空間と視線を隔てる格子の特色、火の見やぐらと町の防火、屋根と鬼瓦などを解説。

その2「町家のくらしとおもてなし編」

前半では、通り土間の機能、台所のへっついや流し、換気と採光のための引き窓のしくみ、梁と大黒柱などのほか、伝統的な建築に関わる大工技術(匠の技)を紹介。後半では、座敷の襖絵と床の間、季節に応じて変える掛け軸、夏には風通しの良い葺戸に替える建具替え、箱階段、縁側などを解説。

その3「商家のあきない編」

町家の表構えに設けられた揚げ店(ばったり床几)、屋根看板、のれんなど、商家の表構えを解説。また、町家の住人によって、薬屋や本屋などの町家での商いの様子を再現。

その4「長屋のくらし編」

裏長屋の間取り、台所、共同便所や井戸などを解説し、大工や振り売りなど、裏長屋に暮らす人たちの生活を再現。裏長屋のおかみさんたちの「井戸端会議」の様子をコミカルに表現。

大阪くらしの今昔館 前館長 谷 直樹
 大阪教育大学 教授 碓田 智子
 大阪くらしの今昔館 特別研究員 岩間 香
 大阪市住宅供給公社 渡邊 望
 (出演・協力:大阪くらしの今昔館・町家衆&ザビネ)

映像はこちらのリンク先から
 ご覧いただけます
http://konjyakukan.com/link_pdf/what's%20this%20.pdf

大阪のすまいとくらしはおもしろい!

